

生協・農協運動、協同組合の現状と課題

安 部 芳 晴 (山形県生活協同組合連合会専務理事)

永 登 寛 之 (山形県農業協同組合中央会教育部)

県内生活協同組合のSDGsの取り組み

安 部 芳 晴 (山形県生活協同組合連合会専務理事)

1. はじめに県生協連に加盟している生協の紹介

山形県生協連には、皆さんが利用する山形大学生協、あるいは生活協同組合共立社、市内にコープのお店があります。医療生活協同組合やまがた（病院を協同組合形式で運営しているところ）、それから山形県高齢者福祉生協（福祉事業を協同組合方式で運営しているところ）、酒田健康生協、県内の小中学校の先生方を組合員として協同組合活動をしている山形県学校生活協同組合、生活クラブやまがた生活協同組合、全国で共済事業を行っている、最近コマースで有名な「こくみん共済 Coop」、最後に山形県生協連の中には農協が1つだけ会員に入っております。余目町農業協同組合です。最後に東北労働金庫山形県本部が会員になっております。

2. SDGsとは

今日のメインは「SDGs」、これは国連で決めた「持続可能な開発目標」をどのように生活協同組合が行っているかということを中心にお話します。

2019年のノーベル化学賞を受賞された吉野彰さんの記者会見の写真でバッジが映っています。今日私も同じバッジをつけています。最近いろんな企業の方とか団体の方がインタビューを受けるときに、こういうバッジをしている方が結構増えております。これSDGsのバッジです。吉野さんが所属する旭化成もSDGsの取り組みを行っているということです。

2015年の国連サミットで、世界を変えるための17の目標を決めました。この17の目標はそれぞれ

1. 貧困をなくそう、2. 飢餓をゼロに、3. すべての人に健康と福祉を、4. 質の高い教育をみんなに、5. ジェンダー平等を実現しよう、6. 安全な水とトイレを世界中に、7. エネルギーをみんなにそしてクリーンに、8. 働きがいも経済成長も、9. 産業と技術革新の基盤をつくろう、10. 人や国の不平等をなくそう、11. 住み続けられるまちづくりを、12. つくる責任つかう責任、13. 気候変動に具体的な対策を、14. 海の豊かさを守ろう、15. 陸の豊かさを守ろう、16. 平和と公正をすべての人に、17. パートナリシップで目標を達成しよう、以上です。これについて更に細かく160いくつの目標数値を定めています。

それでは、生活協同組合がこれらの目標を達成するためにどういうことを具体的にしているかをこれからお話していきたいと思えます。

最初に、東日本大震災後、復興のために「古今東北」という名称で商品を開発しました。例えば、青森県産のキタカミと宮城県白石産の竹鶏たまごを使用したお菓子「バームクーヘン」、福島県南相馬産の「天のつぶ」という米を利用したご飯などのような商品。被災地で生産したものを原材料として食品や商品を作成しました。これは、11番目の目標、それから17番目の目標に該当します。

13番目の目標にエネルギーをクリーンに。それから持続的にとあります。これについて具体化するために、生協では再生可能エネルギーの「コープのでんき」という名称で発電事業を行っています。再生可能エネルギーの風力発電、太陽光発電の電源を東北電力等に売って、安い電力を組合に提供するという活動もやっております。これは生活協同組合共立社と生活クラブ生協で取り組んでいます。余談というところに、バイオマス。また、家庭で出る廃油、天ぷら油とか、あるいは生協のお店でも惣菜を調理すると大量の天ぷら油とか色々な油脂が出ますので、それを原材料に燃やして発電する発電所を設置しております。

「格差と貧困の拡大の中で、支援する取り組みから」ということをつけておきます。ご説明したいと思いま

す。ちょうど去年の今頃、山形新聞に県内の子どもの貧困率は16%。全国平均が13.9%ですからかなり高いというショッキングな報道がされております。今、なかなか表に出ない子どもの貧困という問題があります。極端な話をしますと、ご飯をちゃんと食べられないとか、当然おやつとかそういうものは食べられない。食べられても非常に偏りのある食事しか摂っていないという問題が実際発生しています。このような問題を抱える子が6人に1人いるということが去年発表になりました。この問題は、去年、突然出てきたわけではなくて、ここ何十年かのうちに出てきて、去年初めて県で調査して分かったというところなんです。生協でこれらの子ども達に何とかできないかということで、「子ども食堂」の運営や、「フードバンク・フードドライブ」の運営を行っています。フードバンクは賞味期限が迫った家庭の商品、あるいは事業所、商店の商品を無料で提供していただいて貧困に困る家庭にその商品を社会福祉協議会という公の機関がありますけれども、そこを通じて無料で配布をする。それから、これは前後しますけれども、「子ども食堂」です。今「コープしろにし」というお店で、月1回第4水曜日に夕食を皆で食べて交流するため、ボランティアの生協の組合員、年配の方が中心に、調理して、地域の子ども、一人暮らしのお年寄りの方々に利用していただくための食堂を運営しています。

「フードバンク」。これは食品を提供してもらい、必要としている人に無料で提供する取り組みを行っています。それから「フードドライブ」という取り組みも行われております。これは生協のお店に買い物に来られた方に生協の商品食品とか飲料を買っていただきます。これらを寄付していただき、社会福祉協議会を通じて、経済的に困っている方々に無料で提供します。

生協ではユニセフ、国際児童基金への支援の取り組みも行っております。これもSDGsの目標に合致する取り組みでやっております。今は東ティモールというアジアで一番新しい独立国に毎年、組合員の方、生協を利用される方に募金をお願いして募金を送っております。

3. 高齢の独居者や買い物難民と言われる方々への支援のために～移動販売の取り組み

高齢者の支援の事業も生協でやっております。1つは、移動店舗です。買い物が困難な地域を5台のトラックで週1回巡回しています。一人暮らしの高齢者の方が、近くに生鮮品食品を買うお店がないという方のため、トラックに積んで販売をする。それから夕食宅配弁当。これは一人暮らしでなかなか料理も作れないという方に夕食を配達しているという取り組みをやっております。

生協が行う宅配事業は高齢者だけが対象ではありません。生協の取り組みの中で一番特徴的なのは宅配です。これは移動販売とは違って、あらかじめ生協を利用する人から生鮮品の注文を受けて、翌週にその注文品を各お家に配達をするという仕組みです。も生協共立社と生活クラブやまがた生協の2つが行っております。

「コープくらしの助け合い」。一人暮らしで自宅の家事、掃除であるとか、庭の手入れ、除雪作業などが出来なくなった時に、お互い助け合いでそこをやりましょうということです。除雪できる方、あるいは病院までの車での送迎ですね。運転免許を持っている方が、持っていない方もしくは高齢者の方を病院までお連れして、迎えて自宅まで送り届けるという取り組みを「コープくらしの助け合い」という名称で行っております。これもボランティアのところはあるんですけど、「1回いくら」という利用料金を払って、運転する方、あるいは、除雪する方、掃除する方、庭木の手入れをする方に1時間あたりいくらというお金を払ってやっていただいているという作業です。仕事です。これが「コープくらしの助け合いの会」ということで、92年ですけども、もう二十何年前に発足して、今ずっと活動を続けております。

それから、安心できる老後のために住まいの提供ということでもあります。生活協同組合では、先ほどお話しした山形県高齢者福祉生協、これは有料老人ホーム「みどり」を運営しています。それから酒田健康（酒田にある医療生協）がふれあいホーム「きらり」を運営しております。それから医療生協やまがた、これは介護療養型老健施設「せせらぎ」、「虹」等いろんな施設を運営しています。これは、老人の方が一緒に生活し、介護やいろんなサービスが受けられるものです。山形だけでなく、全国的にこのような施設の運営を生協が行っています。

4. 子育て支援に関して～お出かけキッチンイン庄内浜

子育て・食育という取り組みも行っております。「お出かけキッチン 庄内浜」というのは、庄内浜に行って地引網を引いて、とれた魚で料理を体験する、「おかいものキッチン」というのは、生協のお店で子ども達が買い物をして、今日は〇〇を作るということでそれに必要なものを買って、それをもとにして調理をする。「おは

なしキッチン」というのは、お菓子とかケーキが出てくる絵本を読み聞かせしながら、例えば絵本に出てきたクッキーを皆で料理をする。それから田植えから稲刈りまで体験して収穫して、そのお米でお餅をついたり、おにぎりを作ったりという取り組みなんかも行われています。この他にも若いお母さん方を集めて、育児相談、あるいはお互いの悩み事を相談するような会も行われています。

5. いつまでも住み続けられるまちづくり～地域のいろんな団体と協力して

「いつまでも住み続けられるまちづくり」というテーマ。これも SDGs の目標の中にありますが、生協では例えば、庄内まちづくり協同組合「虹」を組織して街づくりを行っています。これには生協だけじゃなくて、市内の NPO をはじめ農業法人、農業をやっている法人さんであるとか、ファルマやまがたという薬局であるとか、福祉法人とか、医療生協とか、やまがた医療生協とか、共立社、これらの団体が協同でひとつの団体では実施できないようなサービスを住民に提供しようということで取り組んでおります。

これは「いつまでも住み続けられるまちづくり」に関係しますが、災害時に緊急支援、地域防災についても行っております。古くは 1995 年の阪神・淡路大震災、その後 1997 年に県と締結をして災害時に生協が緊急物資を提供できるような協定を結んでおります。去年の 6 月に大阪北部地震、7 月の西日本豪雨、9 月の北海道胆振地震でも支援を取り組みました。今年も実は 6 月に山形県沖地震というのが発生して、その被災者に募金を生協の組合員さんに協力いただいて集めて、鶴岡市に募金する取り組みも行ってしております。それから地域の見守りに関する協定、これも「住み続けられるまちづくり」ということでやっております。これは山形県と生協共立社と生活クラブやまがた生協が締結して、地域の子どもの不審者に連れ去られないようにとか、あるいは一人暮らしの老人の状況を把握できるようにしようということです。実際この見回り活動はどのようにおこなっているかという、前に言った生協の宅配の業務を利用しています。宅配で訪れたご家庭に前の週に届けた荷物や商品がそのまま置いてあるとか、お声掛けしていつも出てくる方が出て来ないとかいった場合に、行政や場合によっては警察に連絡をする取り組みを行っています。毎週宅配をやっていますので、これまで約 20 件の重大な異変に対応しています。

6. 納骨堂の運営

東北の生協で最初に生協共立社が納骨堂を庄内に作っております。「協同の苑」という名前で納骨堂の運営を行っています。今、自分の死んだ後、一人暮らしで自分のお墓を守ってくれる人がいなくなるとか、あるいはお墓をこれから購入し維持するのが非常に大変という方のため、ここを利用可能です。

7. そして平和のとりくみ

最後になりました平和の問題。生活協同組合は、平和でなければできないため、いろいろな平和の取り組みをやっております。平和を守るための取り組みです。「ヒロシマ平和行動」。組合員とかそのご家族が広島に行って毎年 8 月に行われます平和式典に参加をする。沖縄の戦跡・基地めぐりを行う、戦争の体験を聞くということで、もう来年で戦後 75 年を迎えますけれども、いつまでも平和な状態を、平和を守るためにこのような行動をやっております。そのための署名活動とかもやっているのが生協です。

8. そもそも生協の組織はどの目的のためにあるか

次に生協の組織について若干触れたいと思います。SDGs の目的を達成するために生協はあるわけじゃなくて、生協は、皆さんから、組合員から出資していただいて、そのお金でお店、あるいは介護事業所、病院、もっと言えば、労金さんであれば、労金も協同組合ですから、そのお金を元手にお金が必要な方に融資を行っています。生協が普通の株式会社とどう違うのかということを表しているのがこの図です。出資者は株式会社なら株主と言われています。出資した人が必ずしもその出資した会社を利用するとは限りません。運営はプロの経営者がやっているということです。生協の場合は、出資者は山形大学生協であれば、ほとんどの方が出資されていると思います。そのおかげで、生協の食堂や売店を利用している。運営は組合員とありますけども、大学生協も、役員（理事、監事）の中に学生の方にも入っています。このように、組合員 1 人 1 人が出資し、運営し、利用するという方式をとっているのが生協です。これが協同組合の特徴だと言えるかと思います。

生協が国内の小売業に占めるポジションは、2018年の数字ですが、日本の世帯数の38.1%が何らかの生協の組合員です。売上は約3.5兆円でシェアは2.7%ということです。ちなみに、セブンアイホールディングスが10兆円です。

今、皆さんも聞いていらっしゃると思うんですけども、先ほど言った格差の問題、貧困の問題、それから少子高齢化の問題ということで、今新自由主義という立場で経済運営がなされてきて、こういう格差の問題というのは生まれたと言われてます。その対極にあるのが協同です。皆で助け合って生活しよう、生きていこうという考え方です。この根本に据えてやっているのが生活協同組合です。重要なのは、先ほどまで説明してきましたけども、事業的にも成り立つということです。もちろん助け合いとか、見守りとか、事業活動でお金を貰っているわけじゃないんで、そこだけを見れば成り立たないところはあるんですけども、全体で見て生協として宅配もやり、お店もやり、見守りもやり、そういうところで事業的にちゃんと黒字が出せる事業形態を目指そうということをやっております。地域にきちんと根を張って行っていくというのが今の生協の方向ですし、それが最初にお話したSDGsの目標と多くのところで合致するということです。これは生協だけじゃなくて、冒頭にもお話をしましたけども、いろんな企業の方、他の協同組合の方、あるいはNPOの方も目指しているので、それらの団体と協同してSDGsの目標達成のために奮闘しようと今頑張っております。

9. 学生のみなさんへのお願い

今人手不足で、若い方が生活協同組合、農協、労金、農協も後で話があると思いますけども、労金、こくみん共済coop、医療生協で人材が不足しております。地域であるいは地元でこういう仕事をやってみたいという方は、是非就活の選択肢に加えていただいて、会社説明、ホームページで協同組合の説明会、あるいはビッグウィングで説明会とかを行ったりしますので、関心のある方は一緒にやりましょうというお願いで最後私のお話を終わりたいと思います。

ありがとうございました。

以上